

介護する人も大切にされる社会へ ケアラー支援条例をつくらう！

老々介護、認知症介護、障害のある子のケア、ひきこもる家族のケア…介護や看病、療育が必要な家族等を、日常的に介護している人をケアラーといいます。核家族化が進む中、年齢に不釣り合いなケアを担う子ども(ヤングケアラー)が、学業や人生に支障を来していることも見えてきました。

生活者ネットワークでは、ケアラーに必要な支援策を検討するプロジェクトを立ち上げ、当事者からの聞き取り調査をもとに、今年4月に報告書をまとめました。

調査から見えてきたのは、一人が何人ものケアを同時に、または連続して行うケースの多さです。

「脳性まひの子と認知症の父を同時に介護」「うつ病の母を実家に引き取った後、夫が脳梗塞に」など過酷なケアを長期間担

いつつ、自分が頑張るしかないケアラーに、「あなたの人生も大事。どうすればいいか一緒に考えよう」と言える社会をつくりたい。社会的孤立を支え、就労、進学、休息を確保し、将来の不安を軽減するために、「ケアラー支援条例」の制定をめざします。



ケアラー支援プロジェクトでは座長を務めました

子どもの声をまちづくりに生かそう！ 公園調査プロジェクトを実施！

東町の文理台公園で「こどものこえをきかせてください」と書いた旗を持ち、お気に入りの場所や公園への要望を子どもたちから聞き取りました。

「バスケのゴールがほしい!」「ボール遊びがしたい!」「見晴らしのいい展望台が好き」「木のベンチが和む」という声からは、どの子にも意見があること、大人とはまた違う公園への愛着を持っていることが分かりました。一方で「日よけが無くて暑い」「トイレが怖くて使えない」という声も。

西東京市子ども条例には、子どもの意見表明権が定められています。子どもたちの声が公園づくりに反映されるよう努めていきます。



100人を超える子どもたちの声を聞き取りました(右はかとう涼子市議会議員)

かとう涼子さんを推薦します



平井 竜一
元逗子市長



山田 真
小児科医



中川李枝子
児童文学作家



2期8年、全力で取り組みました

- 子ども食堂への財政的支援
- 高齢者のフレイル予防、居場所づくり
- 不登校の子どもを今を支え、未来を応援
- 障がい者の社会参加
- 超短時間雇用の導入
- はなバスのない地域の買い物移動支援
- 公園づくりみどり基金の有効活用
- 脱温暖化!脱原発!次世代にツケを残さない ほか

かとう涼子の取り組み



私たちが応援します

- 坪井 照子 元市議会議員
- 鈴木 美紀 元市議会議員
- 茂木千佳子 元市議会議員
- 金見 芳子 元市議会議員
- 渡辺嘉津子 元市議会議員
- 森下 典子 元市議会議員
- 石田 裕子 元市議会議員

ひとこと提案アンケートにご協力ください!



市民の声を市政に届けましょう。みなさまのご意見・ご要望をお待ちします。
西東京・生活者ネットワーク TEL.042-453-4121 FAX.042-410-0014 E-mail:nishitokyo@seikatsusha.net